

UNIVERSITY OF FUKUI

Graduate School of Medical Sciences, Master's Program in Nursing



2023

福井大学大学院

医学系研究科
修士課程
看護学専攻

Message 研究科長あいさつ



福井大学大学院医学系研究科修士課程(看護学専攻)は、2001年に創設されて以来、基礎看護学、成人看護学、災害看護学、地域看護学、老年看護学および母子看護学それぞれの専門性を保ちながらも複数の専門分野を繋いで学際的に探究することや、医学部医学科と密に連携・協働することで医学・看護学を融合させ、新しい看護の道を開拓してきました。また、「災害看護(2013年)」「がん看護(2014年)」および「老年看護(2017年)」に専門看護師教育課程(CNS)の認定を受け、高度で専門的な看護実践能力を備えたリーダーとなる人材育成にも力を入れています。

本研究科には研究に対する高い関心と意欲があり、出身学校や職種、経験年数など様々な背景や経歴の学生が在籍していま

す。そこに受け身の授業はなく、学生同士や教員を交えてのディスカッションを積み重ねることで、これまでの自分にはなかった多様な視点や新しい考え方が生み出され、オリジナリティあふれる研究活動へとつなげています。このアクティブで切磋琢磨を重ねる学びは、やがて大きな研究成果となって様々な可能性を導き、未来につながる看護となります。

医療・看護を取り巻く社会情勢は大きく変化し続けており、それに伴い複雑化・多様化する健康課題を的確にとらえて対応できる看護職者が求められています。看護の未来を見据え、地域における人々の生活や環境を大事にしつつ、世界でも通用するグローバル(Glocal)な看護を切り開いていくことができるよう、皆さんの研究を教員一丸となって支援します。

福井大学大学院医学系研究科 研究科長 **藤枝 重治**

Contents 目次

研究科長あいさつ Message	02
アドミッション・ポリシー Admission Policy	04
カリキュラム・ポリシー Curriculum Policy	05
ディプロマ・ポリシー Diploma Policy	05
教育研究区別教育研究概要 Outline	06
修士課程修了生×教員 Talk	07

教育研究区分紹介

基礎看護学 Basic Nursing

長谷川智子 教授 Hasegawa Tomoko	10
上原佳子 教授 Uehara Yoshiko	11
本田信治 准教授 Honda shinji	12
北野華奈恵 講師 Kitano Kanae	13
礪波利佳 講師 Tonami Rika	13

成人看護学 Adult Health Nursing

磯見智恵 教授 Isomi Chie	14
佐藤大介 教授 Sato Daisuke	15
繁田里美 准教授 Shigeta Satomi	16
月田佳寿美 准教授 Tsukida Kazumi	16

災害看護学 Disaster Nursing

佐藤大介 教授 Sato Daisuke	15
清水誉子 講師 Shimizu Takako	17

地域看護学 Community Health Nursing

長谷川美香 教授 Hasegawa Mika	18
北出順子 准教授 Kitade Junko	19
川口めぐみ 講師 Kawaguchi Megumi	19

老年看護学 Gerontological Nursing

四谷淳子 教授 Yotsuya Junko	20
-----------------------------	----

母子看護学 Maternal and Child Health Nursing

波崎由美子 教授 Namizaki Yumiko	21
嶋 雅代 准教授 Shima Masayo	22
梅田尚子 講師 Umeda Naoko	22

日本における高度実践看護師教育	23
-----------------------	----

修了生の声 Voice	育成期看護学 畑 菜都希さん	24
	福井大学医学部附属病院 西病棟3階 高野 真紀子さん	25

看護キャリアアップセンター Nursing Career Development Center	26
-------------------------------------------------------	----

学生サポート Student Support	28
------------------------------	----

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、豊かな人間性と高い倫理観、幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとなる人材を育成し、地域保健医療福祉に貢献できる看護職および看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的に掲げており、以下の能力を有する人を入学生として受け入れます。

1. 求める学生像

1-1. 能力、意欲等

- (1) 豊かな人間性と高い倫理観、幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有する人
- (2) 高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとして、地域保健医療福祉に貢献できる人
- (3) 看護職および看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者として、地域社会や国際社会に貢献する強い意欲を有する人
- (4) 周囲との協調性、奉仕の精神を有する人

1-2. 入学までに学習・修得しておくことが期待される内容

- (1) 大学を卒業またはそれに準ずる教育課程あるいは社会生活において、看護学の知識・技能・洞察力を獲得していること
- (2) 正確な文書読解、論理的な記述、適切な表現など、

看護学を体系化・深化させる研究を進めるための基本的な言語運用能力を身に付けていること

2. 入学者選抜の基本方針

求める学生像を踏まえて、多様な観点から受験者の学力や資質を公平かつ多面的・総合的に評価することで、入学者を選抜します。

(1) 一般選抜

大学を卒業した者および同等以上の学力があると認められた者に対し、成績証明書、研究計画書、口頭試問および英語能力試験で評価して選抜します。研究計画書、口頭試問および英語能力試験では、志望する教育研究区分の専門的知識、語学力、大学院で学ぶ意欲、適性、看護に対する姿勢、目的意識等を総合的に評価します。

(2) 社会人特別選抜

大学を卒業した者および同等以上の学力があると認められた者で、看護師、保健師または助産師の免許を有し、一定期間の看護実務経験を有する者に対し、成績証明書、研究計画書および口頭試問で評価して選抜します。研究計画書および口頭試問では、志望する教育研究区分の専門的知識、論理的思考力、大学院で学ぶ意欲、適性、看護に対する姿勢、目的意識等を総合的に評価します。

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、学位授与の方針で示す能力を確実に修得させるため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1.体系的な教育課程(教育課程の編成の方針)

豊かな人間性と高い倫理観、幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとなる人材を育成し、地域保健医療福祉に貢献できる看護職および看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成するため「看護学専攻」に科目を編成します。

(1) 論文課程では、基礎看護学、成人看護学、災害看護学、地域看護学、老年看護学および母子看護学の科目を設け、講義、演習および学位論文等の作成に必要な特別研究科目を配置します。

(2) 専門看護師教育課程では、講義および演習により、各専門分野に必要な基礎的な知識・技術を修得させ、演習および実習により、エビデンスに基づいた確かな判断、卓越したケア技術とケアの知識を修得できるよう科目を配置します。

2.効果的な教育方法(教育課程における教育・学習方法に関する方針)

(1) 社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態や履修指導を行い、学外非常勤講師によ

る講義を活用し、教育目標を達成するための教育指導を行います。

(2) 研究の進捗状況等を発表する中間研究報告会を義務付け、研究内容や手法について、指導教員以外や学生同士での助言や検討の場を設けます。また、修士学位申請時に、学位審査を兼ねた修士論文公開発表会を行います。

(3) 大学院生ごとに指導教員を置き、必要に応じて副指導教員を配置します。

(4) 共通および専門の各授業科目に教科主任となる科目担当責任教員を置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保します。

3.厳格な学修評価(学習成果の評価の方針)

(1) 科目の成績評価は、「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に沿って行います。

(2) 研究成果や研究遂行に求められる能力については、修士論文審査実施要項に定められた論文内容の信頼性及び発展性等の観点から評価します。

4.改善のための教育評価

修士課程で実施する教育をより良いものとしていくため、カリキュラムや授業科目について、成果やアンケート等に基づき、随時、評価と検証を行い、継続的な改善に努めます。

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、本学大学院の学位授与方針及び修了後の進路等社会のニーズを踏まえ、所定の年限在籍し、体系的な教育課程により学業を修め、高度専門職業人として備えるべき以下の能力を修得した者に対し、修士(看護)の学位を授与します。

(1) 高度な看護専門能力に裏打ちされた実践力と研究遂行力

(2) 看護専門分野における実践的で高度な言語運用能力を備えたコミュニケーション力

(3) 地域医療から世界までを視野に入れ、自ら看護課題を見つけて行動できる人間力

(4) 論文課程では、専門性の高い高度な看護ケアを実践する能力、自らの知識と技術を磨く自己研鑽能力、科学的・理論的に判断し説明する能力、医学・看護学の発展のために研究を計画・実行し、その成果を公表する能力

(5) 専門看護師教育課程では、個人、家族および集団に対して、ケアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を活用して対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる能力、高度な実践、教育、相談、研究、調整、倫理の6つの能力を駆使し、看護活動を創意工夫して変革できる能力

Outline 教育研究区別教育研究概要

教育研究区分

教育研究概要

基礎看護学

Basic Nursing

看護ケアの質の評価、看護師と患者のかかわりのプロセス、看護師の健康管理に関する問題、健康障がいと保健行動、看護援助のプロセスの中で生じている看護現象、援助技術の科学的根拠など基礎看護学領域に関する課題について、量的、質的に研究します。

看護の対象である人間の身体的、精神・心理的、社会的側面から評価する為のアセスメントツールの開発をします。また、看護ケアが及ぼす生理的・心理的效果について実験研究を通して科学的・心理学的評価を行います。

成人看護学

Adult Health Nursing

健康障害をもつ成熟期にある人及びその家族を対象とした看護について、発達理論、セルフケア理論、危機理論、ストレス・コーピング理論などを基盤に探求します。

主要課題は、慢性の病をもつ人の健康管理行動の認識と構造やセルフケア能力を高める支援、手術・救急などクリティカルな状態における対象の特性と援助など個人及び集団を対象とした看護介入と評価です。

災害看護学

Disaster Nursing

災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を探求します。災害時の諸問題にアプローチする実践的な援助方法や被災者および支援者が抱える諸問題や看護介入について研究します。

地域看護学

Community Health Nursing

地域に在住する乳幼児から老人までのさまざまなライフステージの人々を対象として、ヘルスプロモーション、疾病予防、疾病の回復促進、リハビリテーション、QOLの向上のための看護支援を探究します。

地域住民の健康レベルは健康な人から疾病・障がいをもって生活する人まで多様です。それらの人々が個人、家族、グループとして最大限に健康を達成するための効果的な地域ケアシステムの構築と評価、在宅看護支援及び介護者支援、家族支援について探究します。

老年看護学

Gerontological Nursing

高齢者を取り巻く急激な環境の変化の中で、高齢者が自分らしい生活の維持やQOL向上を獲得するための援助、高齢者の個別性を尊重し、自律に向けたセルフケア及び家族参加を含めた援助方法を探求します。さらに、ライフサイクルにおける高齢期や高齢者を特徴づける現象や障がいに視点を置き、加齢現象、社会的背景、倫理的側面を考慮した看護実践を研究します。

母子看護学

Maternal and Child Health Nursing

現代の母子や女性を取り巻く健康問題、母子の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、更年期にある人の健康問題など母子看護学に関連した研究課題について、女性と家族のライフサイクルの視点で探求します。また、小児の疾病や健康課題について医療や母子保健、福祉の側面から学修、発達障害や慢性疾患などを有する子どもとその家族が直面する医療上の問題を検討し、地域の視点を含めた問題解決のための看護支援を研究します。

がん看護

(CNS)

がん看護に関する病態生理、診断、治療の原理と最新情報、がん看護の基盤となる看護理論、看護援助論などの専門的な知識を深め、高度な知識・技術を用いて、がん治療に伴う看護、がん患者の苦痛・苦悩に対する看護、治療後の生活調整支援など、がん患者及び家族のQOLの向上のための看護援助を科学的に探求します。さらに、がん医療を取り巻く健康上の諸問題に関して、看護学の視点から実証的な研究を行います。

災害看護

(CNS)

災害による人々の健康や生活への影響、被災者特性、活動現場特性を踏まえ、各災害サイクルにおける被災者に対する援助方法を探求します。行政・住民組織・他職種・ボランティア等との連携・協働・必要時組織化の重要性を理解し、災害時の人々の生活と健康支援に向けて、社会システムや医療・看護ケア提供体制を検討します。個人・家族・組織・地域における防災・減災に向けた諸活動、人々の危機管理意識を啓発する諸活動について人間科学の視点から探求します。

老年看護

(CNS)

歴史的・社会的存在としての高齢者の理解を深め、老化過程や生活の営みに関連する健康問題に対してサクセスフルエイジングを主要概念とした援助方法や、高齢者の価値観や個性に着目し、高齢者がその人らしく生活するための支援や、認知症高齢者と家族への支援など探究します。高齢者のセルフケア能力の開発に貢献するケア方法、高齢者と家族が有する多様なニーズ、課題への創造的・先駆的に取り組みにむけた実証的な研究を行います。



Talk

修士課程修了生×教員

これからの社会に求められる 専門看護師の役割とは

【教授】 佐藤大介 【修了生】 野原正美さん 【修了生】 六戸部香里さん

看護師として現場を経験し、その後、
専門看護師を目指して大学院の扉をたたいたお二人。
修了後は、野原さんは大学教員として、六戸部さんはがん看護の専門看護師として
それぞれのキャリアを深めています。
進学の動機や学びによって得られたものなどについて、
指導教員・佐藤大介教授とともに振り返ります。

被災地での経験が 進学へのきっかけに

佐藤 お二人は修士課程を修了し、野原さんは「災害看護」、六戸部さんは「がん看護」、それぞれの分野で専門看護師の資格を取得されました。また野原さんはこの大学の看護学科の教員として、六戸部さんは引き続き大学附属病院の看護師として勤務されています。先ずお二人に、修士課程に進学された動機や思いについてお聞きしたいと思います。

野原 私は2020年4月に大学院に進学、22年3月に修了しました。それまでは出身地であった北海道の病院に看護師として勤務。災害対応チームに所属し、北海道東部地震の時にはDMAT(災害派遣医療チーム)の一員として被災地に入る経験もしました。けれど現地では何もできずに終わり、その時に感じた無力感や悔しい思いから、災害看護を学びなおす必要性を感じました。体系的に深く学び、あの時の自分の体験を汎用性ある知恵にしていきたい。そんな思いから、大学院への進学を考えたのです。

佐藤 それまでの仕事を退職し、北海道から福井に進学されたのですね。勇気ある決断でしたね。

野原 被災地での体験以前にも災害看護を学びたいという思いはあったのですが、専門看護師のコースがある大学は限られていて、しかも遠方にしかなかったので二の足を踏んでいました。背中を押すきっかけとなったのは、やはり震災での体験でした。

自分の成長と患者さんへの より良いケアのために

佐藤 六戸部さんはいかがでしたか？

六戸部 私は大学附属病院のがん病棟で勤務しており、長期履修制度を利用して、大学院に進学しました。2019年4月の入学、22年3月の修了です。看護学科を卒業し看護師になってから臨床の仕事をしながらもずっと「もっと学んでおけば良かった」という思いを抱き続けてきました。看護の現場を経験したからこそ、学びの必要性を改めて実感したのだと思います。自分自身を成長させたい、患者さんにより充実し

たケアを提供したい、そんな思いを上司に相談したところ、専門看護師を目指すよう勧められ進学を決意しました。

佐藤 職場の理解はすんなりと得られたのですね。

六戸部 はい。大学院進学にあたってはいったん休職する機会が多いのですが、私は勤務を続けながら履修しました。論文執筆の時期などその時々のカリキュラムに応じて有給休暇や出張扱いにしてもらい、夜勤についても融通を利かせていただきました。

佐藤 専門看護師ではなく認定看護師という選択もあったと思いますが、その点はどうでしたか？

六戸部 認定看護師の場合、学びの期間は半年。じっくり学び研究したいという思いが強かったので、専門看護師のコースを選びました。

医療現場の課題と、 専門看護師の役割

佐藤 専門看護師には「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」という6つの役割があるとされています。専門看護師になられた今、現場でどのようにその役割を果たそうとなさっていますか？

六戸部 大学院では高齢がん患者のセルフケアに関する研究をしました。その成果を職場のスタッフに伝え看護に活かしてもらうよう計画中です。また研究過程で様々な論文に目を通してきましたが、そこで得られた知見やデータを現場で活用したり、スタッフ教育に導入していきたいと考えています。

佐藤 野原さんは今、看護学科の教員として後進の育成に携わっておられますが、専門看護師として特に力を入れて活動していることがあれば紹介してください。

野原 「対象者の言葉を質的に考える」ということが、大学院で学んだ重要なことのひとつでした。院を修了してから、被災地に入って消防をはじめ様々な人たちとコミュニケーションをとる時なども、これまでとは違い多様な意見を俯瞰的に聞けるようになったと思います。「困っている人がいるから行く」という行為は大事ですが、そこにとどまらず被災地で交わされている様々な人々の言葉の本質を捉えながら判断し、情報を整理し発信していくのが専

門看護師としての役割だと考えています。こうしてDMATなどの現場での経験やそこで得られた知見を、教育の場で学生にも伝えていければと思います。

大学院を目指す人への アドバイス

佐藤 お二人は看護の現場経験を経て大学院に進学されましたが、ストレートに大学院に行く道もあると思いますが、後進へのアドバイスがあればお聞かせください。

野原 大学4年の間で自分の専門とすべきことが見つかれば大学院に進学できれば、効率的には良いかもしれませんが…(笑) けれど大学院での学びを深く受け止められるようになるためには、やはり現場の経験が大事だと思いますね。

六戸部 福井大学の大学院は、社会人枠で入学される人が多いですね。私も現場を経験したからこそ、もっと学ぼうという動機が生まれました。臨床を経験したからこそ、理解できる知識もあります。また結婚とか出産などのライフイベントを考え、どのタイミングで大学院に行くかも重要なポイントですね。いずれにしても、できるだけ若い段階で高度な知識を持つことは大事なことだと思います。

専門看護師としての 抱負と展望

佐藤 最後にこれからの取り組みや抱負についてお考えをお聞かせください。

六戸部 専門看護師になったからといって、やっている仕事や環境が劇的に変化することはありません。専門看護師の役割は、対象分野において質の高いケアを実現するための仕組みづくりであり、そのための研究と教育にあります。医師やスタッフとコミュニケーションをとりながら、一步一步ケアのレベルアップを実現していきたいですね。

野原 災害分野の専門看護師は数も少なく、認知も低いのが現状です。しかし近年、激甚災害が増えており、災害に対する医療界の関心も年々高まっています。だから先ず、災害の専門看護師という存在を広く認知してもらい、すそ野を広げていく活動に力を注いでいきたいと思っています。教育の場であったり、地域社会での集会の場であったり、あるいは様々なメディアを通じて、災害時の看護だけでなく広く社会の防災・減災体制の構築に貢献していければと考えています。

PROFILE | 修了生プロフィール



野原 正美さん

災害看護
(専門看護師教育課程)
令和4年3月修了

総合病院の外科病棟、救命救急センターなどの勤務を経て、大学院進学のために福井県へ。現在は福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センターに勤務。



六戸部 香里さん

がん看護
(専門看護師教育課程)
令和4年3月修了

福井大学医学部附属病院血液腫瘍内科で副看護師長として勤務。修了後、同病棟で勤務しながらがん看護専門看護師として実践している。

基礎看護学

Basic Nursing

教育研究区分紹介

基礎看護学では、看護の対象である人間を総合的に捉えることを基盤として、質的研究、量的研究、実験研究など、様々な手法の研究活動を行っています。また、テーマも、看護過程や看護診断に関する研究、慢性疾患に関する研究、エンドオブライフに関する研究、看護介入の効果の検証、看護管理に関する研究など、多岐にわたったことに焦点を当てています。

長谷川 智子 教授

Hasegawa Tomoko

基礎看護学

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・基礎看護学特別研究

共通科目

- ・看護研究
- ・コンサルテーション論
- ・ヘルスアセスメント

老年看護学

災害看護学

- ・災害看護学特論

研究テーマ

- 「看護診断の正確性に関する研究」
- 「慢性疾患患者のセルフマネジメントに関する研究」
- 「エンドオブライフケアに関する研究」
- 「パートナーシップ・ナーシング・システム:PNSに関する研究」

主な業績

- 長谷川智子、他編:一歩先のCOPDケア、医学書院、2016
- 長谷川智子:的確なアセスメントから生み出される正しい看護診断、看護診断 16-20、2016.
- T. Hasegawa, C. Ogasawara, E. Katz: Measuring Diagnostic Competency and the Analysis of Factors Influencing Competency Using Written Case Studies, International Journal of Nursing Terminology and Classification 18(3) 93-102, 2007.
- Ogasawara, C, Hasegawa, T, et al: Nursing Diagnoses and Intervention of Japanese Patients with End-stage Cancer Admitted for Different Care Purposes, International Journal of Nursing Terminology and Classification July-Dec ; 16, 3/4, 54-64, 2005.

Message メッセージ

皆さんは子どもの頃にやった夏休みの一研究で、カエルの卵やメダカの親子の観察やアリの巣作りなどで、不思議だともったりわくわくしたりしたことを思い出してください。大学院では今までの知識や技術、そして経験から生まれる素朴な疑問に対して、その原理や背景、因果関係などをひもといいていく過程を学びますが、まさしく夏休みの一研究のような、不思議だと思ったことを明らかにする体験ができます。私達と一緒に「新しい発見」をしてみませんか？



上原 佳子 教授

Uehara Yoshiko

基礎看護学

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・基礎看護学特別研究

がん看護学

- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習

老年看護学

- ・老年看護学演習

共通科目

- ・看護理論
- ・コンサルテーション論
- ・ヘルスアセスメント

Message メッセージ

専門職の技能は知識の応用であり、その技能を維持するためには継続した知識の獲得への努力と、知識に裏付けられた論理的思考力が必要です。また、自分たちが行っている行為の科学的根拠について明らかにしていくことが重要で、そのためには研究的態度と取り組みが不可欠です。看護は実践の学問であると言われており、看護職が専門職としてさらに発展していくためには、臨床現場の最前線で看護実践されている方にぜひ大学院で学んでいただきたいです。



実験研究の例としては、「触れるケア」のストレス緩和や睡眠への効果の検証として、生理学的指標（内分泌系指標や自律神経系指標等）と心理学的指標（気分尺度や不安尺度等）を用いた介入研究を行っています。

研究テーマ

- タクティールマッサージの効果の検証
- 看護学生への喫煙防止教育および禁煙支援力育成教育の方法の検討

主な業績

- 上原佳子,他(2016) 自閉スペクトラム症児の母親へのタクティールマッサージの効果に関する予備的研究.生理心理学と精神生理学,34(3),213-225.
- 上原佳子,他(2012)看護学生の禁煙支援力尺度の開発.福井大学医学部研究雑誌,13(1-2),19-29.
- 上原佳子,他(2011)看護学生に対する喫煙防止教育の効果—喫煙行動・喫煙に関する知識・喫煙に対する態度への介入—.日本看護医療看護学会雑誌,13(1),31-41.

研究テーマ

- 菌類に感染するウイルスと菌類宿主間の相互作用を分子レベルで解析し、最終的には私たちには「良いウイルス」で「悪い病原菌」を病気にして、病原菌感染から治療する手法の開発を目指しています。

主な業績

- 平成22年 Perkins fund award
- 平成26年度 文部科学大臣表彰「若手科学者賞」
- Honda S et al. Nature Communications (2020)
- Honda S et al. PNAS (2016)
- Honda S et al. Nature Structural Molecular Biology (2012)

本田 信治 准教授

Shinji Honda

Message メッセージ

私は看護研究に直接関わったことはありませんが、日本で大学院修士課程・博士課程に進み、ポスドク(博士後研究員)としてアメリカに留学しました。大学院博士号は研究者として世界で認められる資格で、修士課程は世界に羽ばたくための入り口です。そして、研究者は第一発見者として「未知」を「既知」に塗り替え、新たなイノベーションを紡ぐエキサイティングな職業だと思います。

大学院では、テーマについて主体的に学修した内容をプレゼンテーションし、院生間で共有する授業やゼミがよく行われています。効果的なプレゼンテーションとして、見やすいスライドの作成方法や理解しやすい構成、相手に伝わりやすい話し方、またオーディエンスとしての参加のマナー等について、演習を通して学修していきます。





Message メッセージ

研究は、臨床での日々の迷いや疑問などに対し解決へと導いてくれます。研究を通して学んだ事は看護に対する姿勢や看護観に影響し、学ぶ前より自信を持って看護に向き合える自分に出会える機会にもなります。私も本学大学院を修了し、研究だけでなく、そこで出会った同僚や先生方と共に学んだ時間は、何ものにも代え難いものになりました。大学院への進学を迷っている方がいましたら、一歩踏み出す勇気を出してみませんか。一緒に頑張りましょう。

研究テーマ

- タクティールケアの睡眠に対する効果の検証
- 感情労働と精神的負担感に関する研究

主な業績

- 北野華奈恵:保健・医療・介護の現場における睡眠ケア 第7回入院中の子どもに対する睡眠ケア. 睡眠医療, 17(1), 107-111, 2023
- 北野華奈恵, 安倍博, 上原佳子, 礪波利圭, 出村佳美, 長谷川智子:子どもの睡眠に対するタクティール®ケアの効果の検証. 子どものこころと脳の発達, 11(1), 71-80, 2020
- 北野華奈恵, 安倍博, 上原佳子, 礪波利圭, 出村佳美, 長谷川智子:子どもに対するタクティール®ケアのリラクゼーション効果の検証. 福井大学医学部研究雑誌, 21, 3-14, 2020
- 北野華奈恵, 長谷川智子, 上原佳子, 礪波利圭, 出村佳美:看護師の感情規則測定尺度の開発. 福井大学医学部研究雑誌, 18, 11-19, 2018

北野 華奈恵 講師

Kitano Kanae

基礎看護学

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・基礎看護学特別研究

老年看護学

- ・老年看護学演習I

共通科目

- ・看護研究
- ・コンサルテーション論
- ・ヘルスアセスメント

研究テーマ

- 慢性呼吸器疾患患者の家族への支援に関する研究
- COPDの啓蒙・啓発に関する研究
- 入浴が身体に及ぼす影響に関する研究

主な業績

- 礪波利圭, 村松芳幸, 小林恵子, 他:在宅酸素療法中のCOPD患者家族の思い, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 30, 2021
- 礪波利圭, 長谷川智子, 上原佳子, 他:医療従事者・非医療従事者のCOPDに対する知識と健康習慣および主観的健康統制感の関連, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 26(2), 267-272, 2016
- R. Tonami, T. Hasegawa, Y. Uehara, et al: Health care worker's knowledge about COPD and health locus of control, European Respiratory Society Annual Congress 2013
- 礪波利圭, 長谷川智子, 上原佳子, 他:異なる水質への入浴による保温効果と気分の違い, 日本看護医療学会雑誌, 13(2), 26-35, 2011

礪波 利圭 講師

Tonami Rika

基礎看護学

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・基礎看護学特別研究

共通科目

- ・共通科目:看護研究
- ・看護管理論
- ・コンサルテーション論

Message メッセージ

大学院では、看護の中での「なぜ?」という疑問に向き合うことが出来る機会だと思っています。その疑問に対して、大学院では多くの先生方から解決するための手がかりを教えてください。もちろん看護の中には、在学中だけでは答えを見つけることはできないことも多くあります。その先の「なぜ?」に対しての答えを見つける手がかりを得るためにも、大学院と一緒に学べたらと思います。

成人看護学

Adult Health Nursing



磯見 智恵 教授

Isomi Chie

成人看護学

- ・成人看護学特論
- ・成人看護学演習
- ・成人看護学特別研究

災害看護学

- ・災害看護学特論

老年看護学

- ・老年看護学特論

がん看護学

- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習
- ・がん看護学実習
- ・がん看護学課題研究

Message メッセージ

2人にひとり、がんに罹ります。がん治療は、ゲノム医療を含め多様・複雑になってきています。がん看護専門看護師としての能力を身につけ、患者さんや家族、集団のQOLの維持・向上に貢献していきましょう。

大学院では自分自身に向き合うところから進化が始まります。辛いこともあるけど、一緒に乗り越える仲間、支えてくれる教職員がいます。一緒に頑張りましょう。

教育研究区分紹介

【成人看護学】

身体的健康問題をもつ成人期にある人及びその家族を対象とした看護について、発達理論、セルフケア理論、危機理論、ストレス・コーピング理論、対人関係理論などの主要理論を基盤に探求しています。主要課題は、成人期にある人の健康問題と健康管理行動の認識と構造、健康ケアとその効果、慢性的な健康障害における対象の生活の質、手術・救急などのクリティカルな健康障害における対象の特性と援助プロセス及びその効果、ならびに個人及び集団を対象とした看護介入と評価です。

【がん看護専門看護師教育課程】

平成27年度から開講されたこの課程では、がんに関する専門的な知識を深め、エビデンスに基づいた確かな臨床判断を行い、熟練した高度なケア技術とキュアの知識を用いて、がん患者及び家族に対して看護を実践していきます。またあらゆる場面での教育、相談活動、調整や倫理的判断に基づいた行動を身につけていきます。さらにがん看護に関する専門的知識や技術を深めるための研究を積極的に実践していくことが主要な課題です。

研究テーマ

- 慢性病をもつ人への看護に関する研究
- がんとともに生きる人への看護に関する研究

主な業績

- 中野 妃佐恵, 繁田 里美, 磯見 智恵(2023):術後内分泌療法中のボディイメージの変化が女性若年性乳がん患者の思考や行動に及ぼす影響,福井大学医学部研究雑誌23巻,11-22.
- 宮澤 芽生,磯見 智恵他(2020):手術を受けた女性大腸がんサバイバーの就労に関連した体験,第50回日本看護学会論文集 慢性期看護,98-101.
- 富永 知恵子,磯見 智恵他(2020):進行再発がん患者・家族に関わる看護師の困難感の変化,第50回日本看護学会論文集 看護教育,111-114.
- 磯見智恵他(2018):通院がん患者の療養支援における多職種連携に関する研究,日本がん看護学会32Sup,250.



佐藤 大介 教授

Sato Daisuke

災害看護学

- ・災害看護学特論
- ・災害看護学演習
- ・災害看護学特別研究
- ・災害看護学特論I-IV
- ・災害看護学演習I-III
- ・災害看護学実習I-IV
- ・災害看護学課題研究

成人看護学

- ・がん看護学特論II・III・V

Message メッセージ

異文化や他者を認識することは、改めて自分自身の価値観を振り返るきっかけとなり、異なる考えを尊重し相互理解につながると思います。多様性のある社会の中で、特に大学院では様々な人々や価値観に出会うことになります。学生の皆さんにはその出会いをどう受け入れ、それをどう糧にするのか、是非考えてほしいです。物事を多角的に捉え、疑問をもち、そしてそれを寛容する感性を一緒に養っていきましょう。

研究テーマ

- 映像技術とゲーミフィケーションを活用した小学生への防災教育プログラムの開発
- 映像技術を用いた避難所における災害看護教育方法の開発と評価
- 外来化学療法中のがん患者に対するAI機能を用いた遠隔看護システムの構築
- 慢性呼吸不全患者の急性増悪認識AIを活用した遠隔看護モデルの構築
- 周術期看護の臨床実践力を育むためのVRを用いた学習支援プログラムの開発と評価

主な業績

- Daisuke S, Makoto S: Effectiveness of a telenursing system on side effects of chem-otherapy by a crossover trial, Open Journal of Nursing (12) 817-830 2022
- Daisuke S: Evaluation of Fatigue in Cancer Patients in An Area Affected by the Great East Japan Earthquake, Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing (20) 1-6 2020
- 佐藤大介、霜山真: 外来化学療法中のがん患者に対する症状の増悪予防を目的とした遠隔看護システムの有効性、日本遠隔医療学会 17(2) 148-151 2021
- 佐藤大介他: 東日本大震災被災地の支援者に対する疲労調査と疾病予防のための看護支援の考察、日本災害看護学会誌 18(3) 24-35 2017

教育研究区分紹介

平成26年度に災害看護専門看護師課程が設置され10年が経過しました。災害看護学では、全国各地の様々な災害現場に赴き、災害超急性期～復興期におけるシームレスな支援の実際を、支援者の一人として見学・活動することを通して、卓越した看護実践能力の修得を目指してきました。また近年では、被災者たちへの倫理的な配慮をした上で、Virtual Reality (仮想現実) やAugmented Reality (拡張現実) の技術を活用し、防災や減災に目を向けた独創的な視点で研究に取り組んでいます。

本領域では社会に還元できる知見の提供及び災害サイクルを通して活躍できる高度実践看護師の人材育成に貢献したいと考えています。

研究テーマ

- がん看護に関するもの。特にがんサバイバーやその家族に関する研究。がん患者会(self help group、ピアサポート)に関する研究。終末期看護に関する研究等
- 学生の成長過程に関する研究

主な業績

- 山口洋子 繁田里美:「就労継続支援B型施設に長期間通所する精神障害者の通所開始から継続に至るプロセス」日本看護研究学会雑誌 vol40 No3 p152,2017.
- 繁田里美 他:「地域で生活するがん患者・家族の為の患者会・サロンのネットワークの構築」文部科学省「地(知)の拠点整備事業」報告書2015.2発行
- 繁田里美 他:「A県内のがん患者会・サロンのネットワーク構築に向けての取り組み 第1報(活動報告)」～ 定期的な代表者会の開催 ～ ,日本がん看護学会誌,vol31,p 277,2017.
- 西口遥 繁田里美 川口めぐみ:「中年期にある終末期がん患者をもつ配偶者の在宅移行の決定に関する研究」,日本がん看護学会誌,vol33,p 153 ,2018.
- 中野紀佐恵 繁田里美 磯見智恵:「若年性乳がん患者における術後内分泌療法中のボディイメージの変化が思考や行動に及ぼす影響」第34回日本がん看護学会学術集会プログラム集p75 Web版(電子抄録)2020.1

繁田 里美 准教授

Shigeta Satomi

成人看護学

- ・成人看護学特論
- ・成人看護学演習
- ・成人看護学特別研究

災害看護学

- ・災害看護学演習
- ・災害看護学実習

がん看護学

- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習
- ・がん看護学実習
- ・がん看護学課題研究

共通科目

- ・看護教育論

Message メッセージ

修士課程で学修を深めたい、より、高度ながん看護の専門性を身につけたい、研究の仕方を学びたいと考えていらっしゃる皆さん。

学びの中途は悶々と苦しい時期もあると思います。しかし、それらの積み重ねが学ぶことであり、自己成長につながっていきます。私たちと一緒に頑張ってください。修了時に看護者として人としての大きく成長した自分自身を実感してください。

研究テーマ

- 下肢や体幹の支持性が低下した患者の自立を促す車椅子移乗動作
- 実習にケアリング教育を導入するための基礎的研究－学生教員間の相互作用に着目して－

主な業績

- 月田佳寿美,鈴木美栄子,酒井明子,松葉ひとみ,寺下智章:下肢や体幹の支持性が低下した患者の自立を促す車椅子移乗動作,福井大学医学部研究雑誌,12(1-2),15-23, 2011.12
- 月田佳寿美,磯見智恵,三嶋一輝:血液透析患者の要介護の実態と福祉サービス利用の課題,福井大学医学部研究雑誌,12(1-2),25-33,2011.12
- 月田佳寿美,清水誉子,酒井明子,繁田里美,酒井彰久:臨地実習で看護教員が学生に対しておこなうケアリング,福井大学医学部研究雑誌,16(1),21-35,2016.

月田 佳寿美 准教授

Tsukida Kazumi

成人看護学

- ・成人看護学特論
- ・成人看護学演習
- ・成人看護学特別研究

がん看護学

- ・がん看護学特論II

老年看護学

- ・老年看護学特論I

災害看護学

- ・災害看護学演習
- ・災害看護学実習

共通科目

- ・看護理論

Message メッセージ

おもに成人看護学を担当しており、これまでに院生と行った研究は周手術期に関するテーマなどがあります。私自身は、身体障害をもつ人の暮らしを支えるための看護やケアリングなどにも興味があり、それらの研究に取り組んでいます。大学院では、授業や研究を通して、改めて看護とは何かを考える貴重な機会になると思います。一緒によりよい看護を探究していきましょう。



Message メッセージ

私も本学大学院を修了しています。大学院時代の同級生とは今でも連絡を取り合い、学び合うことができています。大学院は今まで自分が行ってきた看護や自分自身などいろいろなものと向き合う時期でもあり、大変なこともありました。貴重な仲間や先生方との出会いの場でもありました。災害現場でもたくさんの方々の出会いがありました。そのたくさんのお出会いが、いろいろな気づきを促してくれたと思っています。私は災害看護学の経験がまだまだ浅く、日々勉強の身です。一緒に災害看護を学んでいきましょう。

研究テーマ

- 防災・減災教育に関する研究
- 慢性疾患を持つ被災者のサポート体制の構築に関する研究

主な業績

- 大学立地地域における災害時の学生による応援体制整備に向けた活動
清水誉子、酒井彰久、酒井明子、月田佳寿美、日本災害看護学会誌20(1)、175、2018
- 平成30年2月に発生した豪雪による福井県内の調査報告 酒井彰久、清水誉子、酒井明子、日本災害看護学会誌20(3)、50-59、2018
- 慢性疾患を持つ老年期の被災者の健康管理～被災後の生活に焦点をあてて～ 清水誉子、酒井明子、繁田里美、麻生佳愛、日本災害看護学会誌16(1)、186、2014

清水 誉子 講師

Shimizu Takako

災害看護学

- ・災害看護学特論
- ・災害看護学演習
- ・災害看護学実習
- ・災害看護学課題研究
- ・災害看護学特別研究

災害看護専門看護師教育課程の中で行った小学生対象の防災教室です。
子どもたちは地域の危険な場所や要配慮者の対応方法などを学びました。





長谷川 美香 教授

Hasegawa Mika

地域看護学

- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・地域看護学特別研究

がん看護学

- ・がん看護学特論

老年看護学

- ・老年看護学特論

災害看護学

- ・災害看護学特論

共通科目

- ・看護政策論

Message メッセージ

地域看護学では、地域で生活している人々と家族、組織、集団そして地域全体の健康課題解決のため、多様な研究テーマで研究に取り組んでいます。看護実践における自らの疑問を探求し、課題解決に向け実践し、将来、福井県の看護を牽引できる人材を育成しています。より質の高い看護を実践したいと考えている皆さん、大学院で勉強してみませんか。これまでの大学院生の研究テーマは、子どもから高齢者まで、あらゆる健康レベルの方を対象に、活動内容も公衆衛生看護、在宅看護、継続看護、入院中の看護、障害者福祉等、非常に幅広いものです。気軽にお問い合わせください。自分の力で論文をまとめるプロセスは、研究能力の獲得はもちろん、日々の看護実践に必ず役立つものです。一緒に看護を極めましょう!

教育研究区分紹介

公衆衛生看護、在宅看護、保健指導に関する研究を主とし、地域で生活する人々及び、健康障害を持つ人々の心身の健康の維持・向上への支援に貢献できる看護学研究を重点的に行います。具体的には、地域に在住する乳幼児から高齢者までの様々なライフステージ、健康レベルにある人びとを対象に、ヘルスプロモーション、疾病予防、疾病の回復促進、リハビリテーション、地域ケアシステムの構築、家族内の虐待・暴力の予防、在宅看護支援及び介護者支援、QOL向上のための看護実践等を探求しています。

研究テーマ

- 大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの開発
- 在宅医療職業人育成モデルの構築
- 開発途上国における安全な水の確保と保健環境改善

主な業績

- Improvement of Water Quality using Triangle Solar Still, Amir Asyraf, Hiroaki Terasaki, Kenji Furuichi, Shunya Kato, Tomohiro Umemura, Teruyuki Fukuhara, Mika Hasegawa, Yukinori Kusaka, 2020
- 大学生の身体的・心理的デートDV (domestic violence) の認識, 長谷川美香, 夏梅るい子, 日本看護協会出版会, 111-114, 2019
- 障がい児をもつ母親の養育態度への影響要因, 関睦美, 長谷川美香, 出口洋二, 家族看護学研究, 23(2), 128-139, 2018

研究テーマ

- 地域保健におけるポピュレーションアプローチに関する研究
- 明治期の衛生統計に関する研究
- 戦中期における保健婦活動と保健婦の技術史

主な業績

- 北出順子, 戦中期における保健指導技術の変容, 医学史研究(103・104), 49-62, 2023
- 北出順子, 19世紀日本における「卒中」言説の変容, 医学史研究(102), 20-22, 2022
- 北出順子, 市町村健康づくり活動が地域住民の社会関係にもたらした変化, 佛教大学社会学研究科紀要, 2019
- 北出順子, ポピュレーションアプローチの誤解を解く, 保健師ジャーナル, Vol.76(1) 12-17, 2020
- 北出順子, データヘルス計画の時代～あらためてデータを保健事業に活かす, 保健師ジャーナルVol.71(10), 832-836, 2015
- 北出順子, 山本英子, 山口里美, 他, 特定健診・保健指導第1期を終えて～医療分析を発端としたポピュレーションアプローチの展開～, 2014
- Changes During Six Months of the Estimated Urinary Sodium and Dietary Habits of Participants in Salt Reduction Classes, 2011

北出 順子 准教授

Kitade Junko

共通科目

- ・看護政策論

老年看護学

- ・老年看護学特論V

地域看護学

- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・地域看護学特別研究

災害看護学

- ・災害看護学特論



Message メッセージ

私は、本学大学院の修了生です。入学のきっかけは、当時の教授が何度も何度も誘って下さったこと。行政保健師だったので、講義開始までに大学へ駆け込み、夜や休日は課題に追われ、という日々を送りました。働きながら学ぶことは本当に大変です。振り返れば、大学院の2年間はただ夢中でした。はじめは時間や課題に追われることばかりで…と思っていました。次第に学ぶ楽しさを得たり、自分の小さな研究が形になって世の中に出ることにワクワクするようになっていきました。春からの2年間で、自分が変わった2年間に。大学院でお待ちしております。

研究テーマ

- 統合失調症患者を介護している家族への看護支援に関する研究
- 高齢地域住民の認知機能と生活習慣に関する研究

主な業績

- Megumi Kawaguchi, Kazuyo Kitaoka, Miho Katayama, et al. Developing "Patients and Public Involvement" Nursing Support Program to Improve People with Schizophrenia's Family Resilience. Journal of Interdisciplinary Research of the School of Medical Sciences, University of Fukui, 23,1-9,2022.
- 川口めぐみ, 北岡和代, 川村みどり他: 統合失調症をもつ人の高齢期にある親の行動～親なき後の将来のための準備のプロセス～, 精神障害とリハビリテーション, 25(1), 78-86, 2021.
- 川口めぐみ, 長谷川美香, 平井孝治: Partnership Nursing System®を採用する精神科病棟に勤務する看護師のやりがい, 日本看護医療学会雑誌, 21(2), 13-21, 2019.
- 川口めぐみ, 東間正人, 田中悠二他: 地域で生活する高齢者の家族レジリエンス, 福井大学医学研究雑誌, 18, 21-31, 2018.
- Megumi Kawaguchi, Kazuyo Kitaoka: Research on the process by which parents of children with schizophrenia associate with their experience: From onset to continuing life in community, Journal of Wellness and Health Care, 41(2), 57-67, 2017.

川口 めぐみ 講師

Kawaguchi Megumi

地域看護学

- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・地域看護学特別研究

老年看護学

- ・老年看護学特別研究

Message メッセージ

私も本学大学院の修了生です。大学院では、起こっている事象を論理的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実施することについて学びました。時には、自分の知識不足を目の当たりにすることもありましたが、その壁を乗り越えることが自分を大きく成長させてくれたと実感しています。

皆さんも看護者としての新たな自分を発見し、日々のお仕事を少し変化させてみませんか？私もまだまだ勉強の身です。是非、一緒に学びを深めましょう。



四谷 淳子 教授

Yotsuya Junko

共通科目

- ・看護研究
- ・臨床薬理学

老年看護学

- ・老年看護学特論
- ・老年看護学演習
- ・老年看護学特別研究
- ・老年看護学特論I・II・III・IV
- ・老年看護学演習I・II
- ・老年看護学実習I・II・III
- ・老年看護学課題研究

Message メッセージ

人生100年時代、誰もが健やかでその人らしい生活を実現するために貢献できることを目指し、フレイルや老年症候群などの予測・予防のための新たな老年看護学創出に向けた研究を行っています。新たな知見を導き出すことで、臨床現場へフィードバックしていくことができ、最終的には高齢者の「健幸」につながります。研究をとおして論理的思考やプレゼンテーション力が身につきます。ぜひ一緒に学び老年看護学を極めましょう!

教育研究区分紹介

高齢者の看護の提供の場は、病院・施設・在宅と様々です。高齢者がその人らしく生活するために、潜在能力を活かしながら生活の質を向上することを目指した研究を促進しています。また、老年看護の各理論を理解し、高齢者の自律支援や効果的なセルフケア、ならびにその家族への有用で創造的な看護について探求します。当研究室では、高齢者のwell-being向上のために、臨床現場のニーズから、大学の専門領域(医学、看護、工学)や企業がもつ知識・技術を統合し、新しい老年看護技術の開発を目指しています。

CNSコースでは、複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族のQOLを向上させるために高度な専門的知識・技術を駆使し、創造的・先駆的な取り組みができる実践・研究能力を育成しています。本学では、現代社会に応じた高齢者看護として、急性期看護と認知症看護に特化したカリキュラムを組んでいます。

研究テーマ

- 体圧分散寝具を評価する寝たきり高齢者臀部モデルの開発と妥当性の検証
- ベッドメーカーの違いがエアマットレスの圧再分配機能に及ぼす影響
- 褥瘡およびスキントピア予防のための寝具の開発
- 高齢者の便秘に対する超音波画像による大腸内部の画像化と定量的評価
- 高齢者の排泄予測システムの開発

主な業績

- 四谷淳子, 橋本美香, 西山淳子:ウレタンフォームマットレスのへたりによる褥瘡発生への影響, 日本創傷・オストミー・失禁ケア研究学会誌, 24(3), 328-333, 2020.
- Wakabayashi M, Sasaki M, Nakayama Y, Aoki M, Yotsuya J. Evaluation of visceral fat using ultrasonography to predict obesity risk in young people, Structure and Function, 19(1), 2-9, 2020.
- Yabunaka K, Matsuo (Yotsuya) J, Takii M, Hara A, Nakagami G, Gotanda T, Nishimura G, Sanada H. Sonographic visualization of fecal loading in adults: Comparison with computed tomography. The Journal of Diagnostic Medical Sonography. 31: 86-92. 2015.
- 松尾(四谷)淳子, 福田守良, 井内映美, 他:ベッドメーカーの違いがエアマットレスの圧再分配機能に及ぼす影響, 日本創傷・オストミー・失禁ケア研究学会誌, 17(1), 33-39, 2013. (学術論文最優秀論文賞)
- Matsuo (Yotsuya) J, Sugama J., Sanada H et al: Development and validity of a new model for assessing pressure redistribution properties of support surface Journal of Tissue Viability, 20:52-66, 2011.

教育研究区分紹介

母子、女性を取り巻く社会の動向を踏まえ、胎児期から小児期、思春期、成熟期、更年期と様々なライフステージにおける健康問題、課題を中心に、母子の心身の健全な育成、周産期の母子看護支援、母子と女性の視点にたった助産活動やケアの質の評価について探求します。また、小児の健康課題について医療のみならず地域母子保健や福祉の側面をふまえて検討し、医療的ケア児や発達障害児、小児悪性腫瘍、慢性疾患を有する子どもとその家族が直面する健康問題の解決法を探ります。

これら研究への取り組み過程を通して、皆さんの母子看護、助産の専門職としての自己の再構築を支援します。

母子看護学

Maternal and Child Health Nursing

波崎 由美子 教授

Namizaki Yumiko

母子看護学

- ・母子看護学特論
- ・母子看護学演習
- ・母子看護学特別研究

がん看護学

- ・がん看護学特論

共通科目

- ・看護倫理

研究テーマ

- 女性のがんと妊孕性に関する看護支援
- ライフステージ各期におけるヘルスプロモーションの視点からの健康支援、看護に関連した研究特に、乳がんや子宮頸部がん検診受診行動促進に関する研究、家庭における母親と娘へのがん検診教育に関する研究に取り組んできました。

主な業績

- 波崎由美子, 佐々木綾子:若年乳がん患者の妊孕性温存意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題. 大阪医科薬科大学医学雑誌, 81(1・2), 74-84, 2022.
- 波崎由美子:付章 周産期にある母子の看護の事例, 渡邊浩子他編, 新体系看護学全書 母子看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. メヂカルフレンド社, 258-280, 2022.
- 波崎由美子, 佐々木綾子:若年女性乳がん患者の妊孕性温存への情報提供および意思決定支援に関する国内外研究の動向と課題. 福井大学医学部研究雑誌, 22, 1-13, 2021.
- 北川加奈子, 波崎 由美子:平均赤血球容積(mean corpuscular volume:MCV)を指標にした妊産褥婦の鉄欠乏性貧血の実態と産褥1ヶ月の鉄欠乏性貧血の影響要因. 母性衛生, 20(1), 29-40, 2020.
- 京盛愛枝, 波崎由美子, 上澤悦子:AYA世代にある小児がん経験者のがん治療体験による恋愛や結婚, 親になることへの過程—マステリー理論による半構造化面接を実施して—日本生殖看護学会誌, 15(1), 27-35, 2018.

Message メッセージ

私自身も本学大学院で学びました。大学院では、臨床や教育現場での経験を通して抱いたある疑問について徹底して考え、仲間や教員と議論して、疑問に対する答えを研究によって見つけ出す過程を学びます。その道りは簡単ではありませんが、2年間の学びを得て看護を多角的、客観的、論理的にみる視点が身につき、大きな成長を実感しました。

女性、母子とその家族への看護・助産をさらに良質のものにしていくために、また、自己のキャリアアップのために一緒に疑問を探求していきましょう。



嶋 雅代 准教授

Shima Masayo

母子看護学

- ・母子看護学特論
- ・母子看護学演習
- ・母子看護学特別演習

研究テーマ

- 母親の感情が母乳育児の意思に及ぼす影響と母乳育児継続支援の検討
- 生殖補助医療後に妊娠・出産した母親の母乳育児に焦点を当てた母親役割獲得支援の検討

主な業績

- 日本における母子間の愛着の概念分析 福井大学医学部研究雑誌,19,2019
- 生殖補助医療(ART)後に妊娠・出産した母親における母乳育児継続に向けた課題と支援 福井大学医学部研究雑誌,18,2018
- Influence of 'Emotions of preconception, prenatal and breastfeeding for neonatal' on breastfeeding intention in mothers who conceived via assisted reproductive technology Journal of Wellness and Health Care,41(1),2017
- Relevance of reason for breastfeeding to breastfeeding intention in mothers one month after childbirth: analysis using text mining 39(2),2016



Message メッセージ

臨床現場で日常的に母子に関わる中で感じる疑問や、何となく効果があると感じて実施しているケアはありませんか?今まで、「何となく」行っていたことが、実は大きな意味や価値のあることかもしれません。どんなに小さな疑問やケアでも、研究によってその根拠が明らかになる過程はとても楽しく、自分の母子看護や助産にとって大きな自信となります。ぜひ、研究の楽しさを皆さんと共有できればと思います。



梅田 尚子 講師

Umeda Naoko

母子看護学

- ・母子看護学特論
- ・母子看護学演習
- ・母子看護学特別研究

研究テーマ

- 出生体重に影響する脂肪酸代謝の検討
- 子どもの成長・発達を規定する要因の検討
- 発達障がいの子どもの支援

主な業績

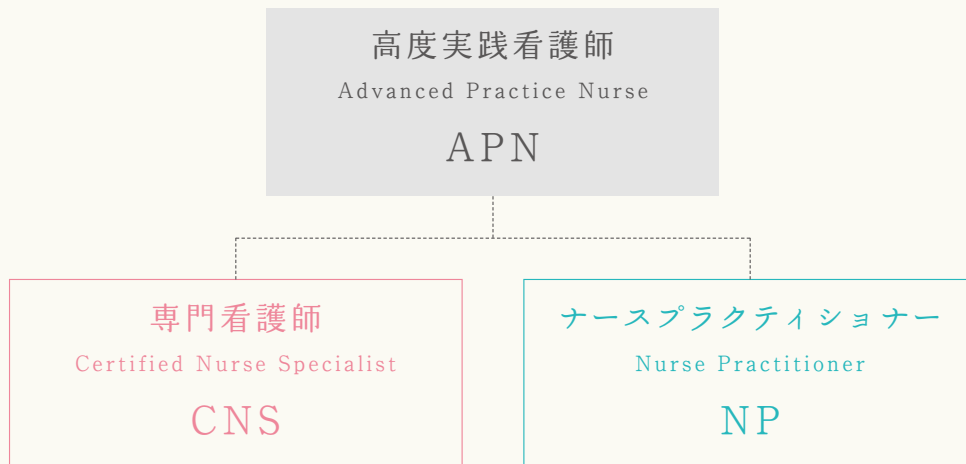
- Umeda N, Hirai T, Matsuzaki H, et al., Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight, Frontiers in Endocrinology, 13:986650, 2022
- 平井孝治, 梅田尚子, 松崎秀夫 他, 自閉症特性を予測する臍帯血中の多価不飽和脂肪酸代謝物, 日本脳科学会, 37, 2022
- 梅田尚子 他: 初回治療段階にある原発性悪性神経膠腫患者の体験のゆらぎ, 日本がん看護学会誌, 29(3), 29-39, 2014
- 梅田尚子 他: 重症心身障害児病棟実習が看護学生の障害児に対するイメージに及ぼす影響, 日本看護学会 40, 218-220, 2011

Message メッセージ

大学院は、看護実践の疑問を追求したり、自身の専門性を高め見識を深める絶好のチャンスです。私は本学大学院で、患者様の内面的世界を理解する質的研究に取り組みました。幾度も壁にぶち当たって心が折れそうになりましたが、先生方や同級生の的確な指導とサポートを得て、研究に進進できました。そして、一つの形となった時には、今までにない達成感を得ました。是非、一緒に子ども達の未来を支える小児看護を探究しましょう。

日本における高度実践看護師教育

日本の高度実践看護師 Advanced Practice Nurse(APN)は、専門看護師Certified Nurse Specialist(CNS)とナースプラクティショナーNurse Practitioner(NP)の2種類で構成されています。目的は、グローバル水準の看護の高度専門化と役割拡大を通して、国民の医療ニーズに対応し、医療の質の向上および国民の健康の増進に貢献することです。



高度実践看護師の種類

福井大学医学系研究科修士課程では災害看護専門看護師教育課程、がん看護専門看護師教育課程、老年看護専門看護師教育課程を設置し、高度実践看護師の育成に努めております。

高度実践看護師になるためには・・・

高度実践看護師になるためには、以下の3つを全て満たしている必要があります。

- 高度実践看護師教育課程をもつ大学院修士課程で、必要な単位を習得して修了していること。
 - ※専門看護師には、現在、「がん看護」「精神看護」「地域看護」「老年看護」「小児看護」「母性看護」「慢性看護」「クリティカルケア看護」「家族看護」「感染看護」「在宅看護」「遺伝看護」「災害看護」「放射線看護」の14分野の教育課程があります。
 - ※ナースプラクティショナーには、現在、「プライマリケア看護」の教育課程があります。
- 看護実務経験が5年以上あり、そのうちの3年以上は専門とする特定分野の経験であること。
- 専門看護師は、日本看護協会で行う、認定試験に合格すること。
- ナースプラクティショナーは、本協議会のJANPUナースプラクティショナー(JANPU-NP)資格認定委員会が行う認定試験に合格すること。
CNSもNPも、認定後も5年ごとに更新審査を受ける必要があります。

高度実践看護師の仕事は・・・

高度実践看護師は、質の高い看護ケアを提供するために次のような活動をしています。

- ・実践 健康問題を持つ方やご家族などに、直接、専門的で質の高い看護ケアを提供すること
- ・教育 看護スタッフや他の医療職者など、ケアに関わる人への教育的な役割を果たすこと
- ・相談 ご家族や看護スタッフなど、ケアに関わる人の相談にのること
- ・調整 必要なケアがスムーズに提供されるように、ケアにかかわる人々の間の調整を図ること
- ・研究 専門知識・技術の向上や開発のために研究活動を行うこと
- ・倫理調整 ケアにかかわる倫理的問題について、関係者間での話し合いが持てるように調整すること



自分自身を見つめなおし、 自分の可能性を広げる 有意義な時間

育成期看護学

畑 菜都希さん

Hata Natsuki



大学時代の卒業研究をきっかけに研究に興味を持ち、もっとしっかりと研究をしたいと思い大学院に進学しました。大学院生活では様々な年齢や職位を持った仲間と共に、研究について学び、テーマについて議論します。多角的にフィードバックをもらうことでさらなる思考を深め、自身の研究内容が洗練されていきます。ひとつの疑問を徹底的に突き詰めて、熟考していく過程は苦しい道のりです。しかし、わからなかったことを明らかにしていく作業は、時折楽しさがありました。また、大学院では将来の選択肢を広げることができる有意義な時間になりました。私にとって大学院で学んだ時間は、自分自身を見つめなおし、自分の可能性を広げることができた貴重な2年間でした。

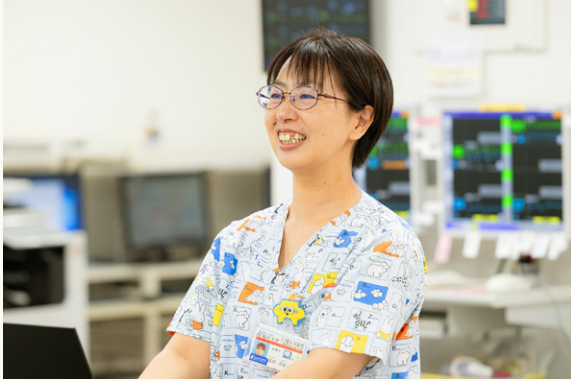
私の大学院生活

1年目

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
中間研究報告会に向けて発表準備					後期授業開始				ティーチングアシスタント(TA)として 学部生の実習に引率する	大学院ゼミ開始 (文献抄読など)	入学式・ 前期授業開始

2年目

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
学位記授与式		研究報告会	論文作成			データまとめ			データ収集開始	中間研究報告会	



看護とは何か、 自分の看護を 突き詰める場所

福井大学医学部附属病院 西病棟3階

高野 真紀子さん

Takano Makiko

看護師として仕事をする中で、看護とは何だろうと改めて考えました。仕事の中で考えるのは限界があると思い、子育ての手が掛からなくなった今しかないと思い大学院へ進学しました。大学院在学中には父の死を経験し辛い思いもしましたが、大学院の先生方をはじめゼミの仲間にも恵まれ、2年間家族や職場の協力を得て、非常に充実した日々を送ることができました。看護学生の実習での指導に関する研究を行いました。現在は病棟実習に来る看護学生への指導を丁寧に行い、看護学生が充実した実習を行えるよう援助できていると思います。看護とは何か、この答えは日々変化し考え続けています。いつか看護とは何かの答えを明確にできるよう自分の看護について突き詰めていきたいと思っています。

私の大学院生活

1年目

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
		研究計画書作成に 悪戦苦闘			ゼミ開始 研究テーマの模索		特別講義への参加	授業の課題レポート の作成		様々な講義を受ける 楽しさと、仕事・家 事との両立の日々	入学式で院生としての これからに期待と不安 の気持ちでいっぱい

2年目

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
最終試験、学位授与式	論文修正	研究報告会	アンケート分析、 論文作成	調査用紙回収、 アンケート分析	調査用紙配布	調査用紙配布		文献検索や 論文作成について学習、 父の死	倫理審査委員会に提出	中間研究報告会	

目的

福井大学大学院医学系研究科に附属する地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門では、変動する社会環境の中で高度専門化する医療・看護の社会的ニーズに応えるべく、看護基礎教育を修了した看護師のキャリアアップ支援活動を行っています。当部門は、各医療機関で就業しながら学ぶ、また一旦離職した潜在看護師が最新の看護ケアに必要な知識や技術を学ぶ『人材育成担当部門』と、日本看護協会の認定看護師資格取得を目指す『認定看護師育成担当部門』の2部門で構成されています。これらの教育活動の推進を図ること、また本学医学部附属病院とともに多面的な視野で実践研究に取り組むことで、看護学における教育・研究活動を地域社会に還元することを目的としています。

人材育成担当部門

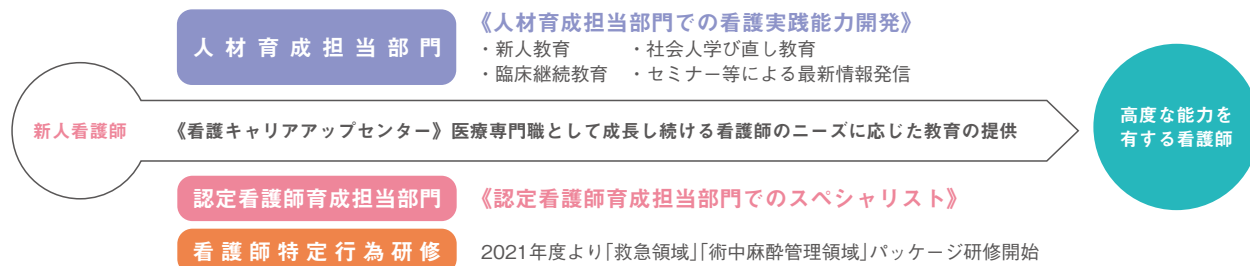
再就職を目指す潜在看護師、看護基礎教育修了後の新人看護師、様々な分野で専門性を高めたい就業看護師に対し、看護実践能力開発講座を開講しています。受講を希望される方はホームページのお申し込みフォームからお申込みください。

ホームページ <http://kango-career.med.u-fukui.ac.jp>

「看護実践能力開発講座」 講座内容一覧 (講座内容は都合により変更する場合があります。)

1. パワーポイントによるプレゼンテーション	9. 慢性呼吸器疾患患者の人生の最終段階におけるケア	17. シミュレーションで見てみよう!手指衛生の必要な場面
2. 細菌について学び直してみませんか?	10. フィジカルアセスメント 苦手意識を克服しよう!これを知っていればラクラク心電図	18. ポイントケア: EBMに基づいた排尿管理
3. 院内感染対策 ～アウトブレイクを防ぐために～	11. 慢性呼吸器疾患患者の在宅における呼吸ケア	19. がん患者におけるリンパ浮腫の知識とケア
4. 慢性呼吸器疾患論～COPDと睡眠障害～	12. 結核症・非結核性抗酸菌症の理解と潜在性結核感染への対応	20. 1000人のがん患者さんから教わった緩和ケア
5. いろいろな せん妄 知っていますか?	13. 脳卒中についておさらいしませんか?	21. 量的看護研究 あなたでもできるアンケート調査とデータの活用法
6. 看護師さんの「困った」や「もやもや」に答える看護倫理	14. 酸素のない生活と酸素療法	22. 発達障害がある方のおつきあい
7. 最新の看護診断と看護過程をおさえれば看護診断なんて恐くない!	15. 胸部(肺)のヘルスアセスメント —聴診のエキスパートになろう—	23. 一高齢者の口腔ケアに向けて—はじめの一步!口の中を観ることから始めよう
8. 慢性呼吸器疾患患者のヘルスアセスメント ～画像検査～	16. いまさら聞けない介護保険のイロハ	24. その人らしく生きるために ～アドバンスケアプランニング～

概要



認定看護師育成担当部門

特定の分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践の出来る認定看護師を育成します。

修了者は日本看護協会の認定審査に合格すると認定看護師として登録され、この分野の実践・指導・相談の3つの役割を果たします。

詳細はホームページ(<http://kango-career.med.u-fukui.ac.jp/nurse/documents>)から募集要項をダウンロードし、確認してください。

看護における高等教育の充実

- ・地域医療をリードする高度実践能力を有する看護スペシャリストの養成

実践・指導・相談の 3つの役割を果たす 認定看護師	実践	特定の分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
	指導	特定の看護分野において、看護実践を通して看護者に対し指導を行う。
	相談	特定の看護分野において、看護者に対しコンサルテーションを行う。

【呼吸器疾患看護分野_特定行為研修を含む】定員20名

(目的)

1. 呼吸器疾患看護分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践できる能力を育成する。
2. 呼吸器疾患看護分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成する。
3. 呼吸器疾患看護分野において、看護職等に対しコンサルテーションを行える能力を育成する。
4. 呼吸器疾患看護分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 呼吸障害に対して高い臨床推論力と病態判断力に基づき、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面的確なアセスメントができる。
2. 呼吸障害に対して高い臨床推論力と病態判断力に基づき、呼吸症状のモニタリングと評価ができる。
3. 呼吸障害のある対象者に対して症状緩和のためのマネジメントを行い、QOLを高めるための療養生活 行動を支援することができる。
4. 呼吸障害のある対象者の身体的・心理的・社会的な対象特性に応じて地域へつなぐ生活調整ができる。
5. 呼吸器疾患看護分野において、役割モデルを示し、看護職への指導を行うことができる。
6. 呼吸器疾患看護分野において、看護職等に対し相談対応・支援を行うことができる。
7. 呼吸器疾患看護分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとして、役割を果たすことができる。
8. 呼吸器疾患看護分野において、患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。

【感染管理分野_特定行為研修を含む】定員20名

(目的)

1. 感染管理分野において、個人、家族及び集団に対して、医療関連感染予防のための高度な管理力及び高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践する能力を育成する。
2. 感染管理分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成する。
3. 感染管理分野において、看護職等に対しコンサルテーションを行える能力を育成する。
4. 感染管理分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 施設及び地域の状況を評価し医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築し推進することができる。
2. 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。
3. 感染リスクの高い患者あるいは感染徴候のある患者を多角的に捉え、臨床推論力と病態判断力に基づいた実践により、感染症の進行や重症化を予防し回復を促進することができる。
4. 感染管理分野において役割モデルを示し、看護職への指導、看護職等へのコンサルテーションを行うことができる。
5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チーム医療のキーパーソンとして役割を果たすことができる。
6. 医療等を提供する場で働くあらゆる人々と患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染予防と管理、抗菌薬の適正使用等における実践ができる。

入学料・授業料免除制度

- ①経済的な理由等により入学料や授業料の納付が困難な方
- ②学校・官公庁・医療機関などに勤務している社会人で入学試験の成績が優秀な方
- ③特別なプログラム等を利用して優秀な成績で入学した方

などを対象とした免除や徴収猶予の制度があります。これは学生本人の申請を受け、審査機関の選考により決定するものです。なお、この制度は現行制度に基づくものであり、今後この基準が変更となる場合がありますので、希望する方は、入学手続きの前(入学料・授業料の振込をする前)に松岡キャンパス学務課学生担当(TEL 0776-61-8266)にお問い合わせください。

入学料免除・徴収猶予制度 (入学料 282,000円)	経済的な理由により入学料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる方の入学料を免除、又は徴収猶予する制度です。入学前1年間以内に学資を負担している方が亡くなった場合や、本人および学資負担者が風水害等の災害を受けた場合など、特別な事情により入学料の納付が困難となった方も申請いただけます。	
授業料免除制度 (授業料年額 535,800円)	経済的な理由等	経済的な理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる方の授業料を全額あるいは半額免除する制度です。授業料納付前6ヶ月以内に学資を負担している方が亡くなった場合や、本人および学資負担者が風水害などの災害を受けた場合など、特別な事情により授業料の納付が困難となった方も申請いただけます。申請は半期毎に必要です。
	大学院入学時成績優秀	社会人で入学試験の成績が優秀な方や、特別なプログラム等を利用して優秀な成績で入学した方の授業料を入学後1年間、半額免除する制度です。なお前期の成績によっては、後期の免除を許可しないこともあります。

※授業料免除制度における「経済的な理由等」および「大学院入学時成績優秀」は併願が可能です。

※入学料・授業料免除制度の詳細は、本学ホームページをご確認ください。

奨学金制度

①独立行政法人日本学生支援機構

人物、学業ともに優秀かつ健康であり、経済的理由により修学が困難と認められる方を対象とした、独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。

第一種奨学金(無利子)	月額50,000円、88,000円から選択
第二種奨学金(有利子)	月額50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

これは大学院を卒業後に返還していただく貸与奨学金で、例えば第二種奨学金(有利子)で月額50,000円を2年間借りた場合、返還年数を12年とすると、月々1万円程度の返還額となります。また、第一種奨学金を借りた場合で、在学中に特に優れた業績をあげたと日本学生支援機構から認定されると、奨学金の一部または全部が返還免除となる制度もあります。

この奨学金の申請等は入学後(4月)に学内の掲示板等で案内します。

②福井大学大学院医学系研究科振興奨学金

本学には、将来医学領域または看護領域における優れた研究・実践力を有する医療人を目指す社会人大学院生(ただし、医師として本務先を有する方は除きます)を対象とした独自の奨学金制度「福井大学大学院医学系研究科振興奨学金」があります。この奨学金は返還の必要がありません。

学生本人の申請を受け、審査機関の選考により対象者を決定しますが、申請には指導を希望する教員の推薦等も必要です。この奨学金を希望する方は、入学試験の出願前に松岡キャンパス学務課学生担当(TEL 0776-61-8266)に問い合わせてください。

昼夜開講制度

大学院で看護学をより深く研究するには看護現場での臨床・実践経験が重要ですが、社会人が勤務を離れて修学することは難しく、教育を受ける機会が制約されがちです。

そのため本学では、社会人が離職することなく修学できるように夜間や特定の時間または特定の時期の受講を認めており、多くの社会人学生がこの制度を利用しています(大学院設置基準第14条「教育方法の特例」)。

この制度の適用を希望する方は、指導を希望する教員にご相談ください。

長期履修制度

仕事と学業を調整しながらバランスよく両立したいという社会人学生に対し、長期履修制度があり、標準修業年限2年を最長4年の範囲内で延長することができます。

この制度を申請できるのは、大学院に入学される方および入学後1年未満の方となっています。

なお、申請を希望される方は、合格発表後速やかに、または在学中の方は入学1年目の2月中旬までに学務部松岡キャンパス学務課(TEL 0776-61-8247)にお問い合わせください。

【ポイント①教育課程の比較】

教育課程や必要単位数などの修了要件は標準修業年限(2年)と同じですので、年度あたりの時間的負担が軽減されます。

標準修業年限(2年)	1年目 18単位	2年目 12単位	修了	
長期履修制度適用(3年)の場合	1年目 8単位	2年目 10単位		3年目 12単位
長期履修制度適用(4年)の場合	1年目 6単位	2年目 6単位		3年目 6単位

※単位数は修了までに30単位を取得する場合の参考例です。専門看護師教育課程(CNS)の場合は38単位以上の取得が必要です。

【ポイント②授業料納付の比較】

授業料は原則、標準修業年限分(2年分)を長期履修期間に応じて分割しますので、年度あたりの経済的負担が軽減されます。

標準修業年限(2年)

1年目 535,800円	2年目 535,800円
--------------	--------------

長期履修制度適用(3年)の場合

1年目 357,200円	2年目 357,200円	3年目 357,200円
--------------	--------------	--------------

長期履修制度適用(4年)の場合

1年目 267,900円	2年目 267,900円	3年目 267,900円	4年目 267,900円
--------------	--------------	--------------	--------------

※金額は修了までに1,071,600円(授業料の2年分)を支払う場合の参考例です。

注意事項

※長期履修期間中に修了できない場合は長期履修期間を含めて5年まで在学できますが、認められた長期履修期間を超えて履修する場合には、通常の授業料(年額535,800円)が適用されます。

※上記の例は、入学前に申請し、承認された場合の授業料分割のモデルケースです。在学中に長期履修を申請した場合はこの限りではありませんので、ご注意ください。

アクセス



【交通機関】

- 東京 >>> 小松 (飛行機で約1時間)
- 東京 >>> 福井駅 (電車で約3時間半)
- 名古屋 >>> 福井駅 (電車で約1時間40分 バスで約2時間50分)
- 大阪 >>> 福井駅 (電車で約1時間50分 バスで約3時間半)
- 小松 >>> 福井駅 (バスで約1時間)
- 福井駅 >>> 松岡 (バスで約30分)

【所在地】

松岡キャンパス
〒910-1193 吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
Tel 0776-61-3111 (代表)

【お問い合わせ先】

松岡キャンパス学務課 大学院担当
Tel 0776-61-8247
Email m-kyomu@ml.u-fukui.ac.jp



松岡キャンパス